

## ポイント

本校は、実業高校で、担任しているクラスは、介護福祉士や保育士をはじめ将来、何らかの形で「人のために働きたい」という希望を持つ福祉科である。生徒たちは、入学後様々な福祉にかかわる勉強をしてきた。そうした日々の充実した活動や成果がもとになって、今回生徒たちから「募金活動をしたい」という提案があり、手探り状態からの募金活動が始まった。

## 1、世界の水の現状と問題をとらえる

- ・世界では水が足りない国がある。
- ・12億の人々がきれいな水を飲めない。そのうち5億人が子どもたちである。
- ・汚れた水を飲むことでしか生きていけない子どもたちを見るとショックである。

## 2、自分たちの生活と比べてみる

- ・普通に家の水道水を飲んだり、買ったりしている。
- ・茶色い水を飲んでいる姿を見ると申し訳ない。
- ・水は大事なものと改めて感じる
- ・泥水を飲んでいる子を助けたい、力になりたい。

## 3、水の問題を訴えよう

- ・自分は何か役に立てないか
- ・調べてまとめた掲示を見て、募金してくれた人もたくさんいた。
- ・水問題のことを知った上で、募金してくれたことが、とても嬉しかった。
- ・水の問題でわかったことをまとめたことは大変だったが、勉強になった。

## 4、活動を終えての感想

- ・きれいな水を1本でも、多く買ってほしい。
- ・みんなが少しずつ募金をして集まったお金です。みなさんの力になればと思う。
- ・水問題だけでなく、まだまだ深刻な問題があるのではないか。
- ・これからも世界の子どもの存在を忘れずに、私自身一生懸命生きていきたいと思います。



作成資料「世界の水問題」



やり遂げた達成感

生徒は、活動を進める中で、世界の厳しい現状や自分たちの恵まれた生活などへの思いや考えを深めていった。活動内容は、他にも、・国境なき医師団、・盲導犬協会、・子どもの臓器移植、も行われた。活動の最初は、班単位であったが、進めていくうちにクラス全体がかかわる活動に広がっていった。今回の活動を通して、生徒たちは、なすことによって大きな学びとなった。また、文化祭を終えて「自分だけよければいい」というもののとらえ方が少なくなってきたことに気づいた。そして、その達成感から、ユニセフに「手紙を出そう」という声が届けられた。